

I. 会員の資質向上支援

I-1 学会誌の充実

会会員等の多様化する情報ニーズに応じて、学会誌の内容を充実させ誰もが読みたくなり、親しみのあるものにする。また、学会誌の情報発信のあり方について、検討する（主担当：編集委員会）。

I-2 研究発表会・シンポジウムの充実

会員の多く、特に若手会員や学生が研究成果を発表できる環境を整備するとともに、対面とオンラインのハイブリッド開催の推進や新しい話題の提供により、学会員の積極的な参加を促進する（主担当：事業企画委員会）。

I-3 ホームページなど情報発信機能の充実

ホームページを適宜更新し、本学会および関連学協会の最新情報を提供する。また、ニューズリストやSNSを活用し、タイムリーなニュースやトピックスを会員に発信する。さらに、市民への情報提供に資するホームページの刷新について検討する（主担当：広報・情報委員会）。

II. 学術・技術の進歩への貢献

II-1 基礎的な研究の継続

学術団体として、基本である応用地質学に関する基礎研究を継続して行い、研究成果は適宜、研究発表会、シンポジウム、学会誌などで公表する（「I-1 学会誌の充実」、 「I-2 研究発表会・シンポジウムの充実」と関連）（主担当：各研究部会）。

II-2 研究教育部門の充実

実務レベルの研究・教育を担う研究教育部門を充実させる（主担当：研究企画委員会、応用地質学教育普及委員会）。

II-3 応用地質学における技術標準化の促進

応用地質学の専門技術に対して、学会標準等の基準の策定、登録制度の是非等について検討する。（主担当：理事会）。

II-4 応用地質技術者の育成

応用地質技術者育成のための応用地質技術入門講座などをさらに充実させる（主担当：応用地質学教育普及委員会、各研究部会）。また、学会の活性化と応用地質学の普及を図るための応用地質学の体系化とそれに基づいた教科書の執筆に向けた具体的な活動を行う（主担当：教科書執筆特別委員会）。

II-5 先端技術の利活用

先端技術ワークショップの開催を継続するとともに、その利活用方法に関する取り組みを充実させる（主担当：研究企画委員会）。

Ⅲ. 社会への貢献

Ⅲ-1 災害対応への貢献

地質に係わる広域自然災害発生時には調査団を設置し、常時においても災害への備えへの啓発活動を行うなど、防災・減災・縮災に貢献する（主担当：理事会、災害地質研究部会、各支部）。

また、災害対応を円滑に行える基盤を整備し、学会活動の強靱化を図るため、学会としてのBCP(事業継続計画)の策定に着手する（主担当：総務委員会、理事会）。

Ⅲ-2 アウトリーチ活動を通じた応用地質分野の魅力発信

一般市民への啓発・普及活動や安全な地域社会へ向けての提言などアウトリーチ活動を通して、応用地質分野の魅力を発信する（主担当：社会貢献と魅力発信に関する特別委員会、各研究部会、各支部）。

Ⅳ. 学会基盤の強化

Ⅳ-1 将来構想の策定

長期的な将来の学会のあり方であるマスタープランをブラッシュアップするとともに、前期までに達成していない活動方策を具現化する（主担当：理事会、将来構想検討特別委員会）。

Ⅳ-2 学会規模の拡大

会員数の増加を通じた学会規模拡大のための多面的な施策を実行する（主担当：総務委員会）。

Ⅳ-3 国際活動の活性化

海外との情報共有をより活発に行う。また、主に若手会員に役立つ海外業務に係る技術や知見等を発信する（主担当：国際委員会）。

Ⅳ-4 ダイバーシティおよびインクルージョンの推進

多様な会員を受け入れ尊重する風土を醸成する。また、多様な会員が活躍できる環境を整備し、学会活動を活性化させる。また、応用地質学の多様化を実現するため、委員会や研究部会、他学会等と連携した検討を行う（主担当：ダイバーシティ推進委員会）。

Ⅳ-5 関連学会との連携の強化

地球惑星科学連合での活動を継続し、また応用地球科学の関連学会との連携を強化する（主担当：理事会）。

Ⅳ-6 応用地質関連の研究者・技術者への支援

応用地質分野の認知度をさらに向上させ、今後学会員として活躍が期待される研究者・技術者に対して、様々な支援活動を行う（主担当：理事会、総務委員会、応用地質学教育普及委員会）。

Ⅳ-7 オンライン化推進による学会活動の拡張

本部・支部における研究発表会、シンポジウム等による交流の活性化のため、また学会活動のアウトプット（出版物など）をタイムリーに届けるため、インターネットを活用した事業を推進する（主担当：事業企画委員会、広報・情報委員会、総務委員会、各支部）。

